

和歌山県内経済情勢報告

(令和6年1月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を据え置き)

項目	前回(5年10月判断)	今回(6年1月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しているほか、雇用情勢は、持ち直しつつあるなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(5年10月判断)	今回(6年1月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、温暖な気候が続き、冬物衣料品の需要が低調であったことから衣料品で減少している一方で、価格上昇の影響により買い控えの動きがみられるものの、飲食料品で堅調となっている。

コンビニエンスストア販売は、価格上昇の影響により低価格帯の商品の売上が増加している。

家電大型専門店販売は、季節商品の売上が好調となっていることから前年を上回っている。

ドラッグストア販売は、外出機会の増加により化粧品の売上が増加しているほか、かぜ薬などの医薬品の売上が増加している。

乗用車の新車登録届出台数は、部品供給制約の緩和により生産台数が回復したことを受け、新車供給台数が増加していることから前年を上回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、円安の影響などもあり外国人観光客が増加していることから全体の観光客数が増加している。

(主なヒアリング結果)

- 物価高が引き続いている影響を受けて、買い控えの動きが強まっていることから来店客数や買い上げ点数は減少しているものの、値上げにより客単価は上昇していることから、前年同期比で売上が増加している。(百貨店・スーパー)
- 10月以降比較的気温が高く、冬物衣料品の売上が低調であった。(百貨店・スーパー)
- 化粧品については、マスクを外す機会が増えたことから口紅などを中心に売上が増加している。医薬品については、インフルエンザやかぜが流行していることもあり、かぜ薬の売れ行きが好調。(ドラッグストア)
- 気温が一気に下がった時期があり、エアコンやヒーターなどの暖房器具の売上が良くなっている。(家電大型専門店)
- メーカーの生産回復に伴い納車が進んでいることから新車の登録台数が前年よりも増加している。(自動車販売店)
- 円安の影響などから外国人観光客が増加しているほか、今期はコロナの影響がなくなったことや秋の行楽シーズンであったこと、コロナ禍で開催できていなかったイベントが開催できたことから観光客数はかなり増加しており、前年やコロナ禍前の水準を上回る。(公共団体)
- コロナの影響が無くなった夏以降、客数、売上ともに前年比で増加が続いており、ランチではコロナ禍前以上の売上になっている。(飲食店)

■ **生産活動** 「持ち直している」

鉱工業生産指数でみると、「化学工業」などは低下しているものの、「機械工業」などは上昇している。

企業からは、機械工業において、国内需要が好調であり生産量は増加しているとの声が聞かれており、生産活動は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 海外需要が減退している状況ではあるが、衣料品の国内生産状況は順調で設備投資需要の増加傾向が続いているため、当社の生産状況は安定している。(生産用機械)
- 前期と比較すると、今期は取引先からの受注が増加しており、工場の稼働率も高い状況にある。(金属製品)
- 年末の大掃除の時期に合わせて、掃除用品などの需要が好調である一方で、コロナ禍の時ほど感染症対策意識が強くないこともありハンドソープの売上が減少している。(化学)
- 今期は自動車向けスラブの回復傾向が継続しており、鋼管も需要が衰えていないものの、建設需要が回復せず、形鋼などの引き合いが弱いいため、前期と比べて横ばいかもしくはやや減少になる見込みである。(鉄鋼)
- 前年同期と比べると、化学製品の出荷数量は中国経済の減退などにより減少している一方で、原材料価格の上昇分の一部を販売価格に転嫁していることから、出荷金額は増加している。(経済関係団体)

■ **雇用情勢** 「持ち直しつつある」

有効求人倍率（5年11月）は、前月と比べて低下しているものの、新規求人数は、3か月平均でおおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 「建設業」について、公共事業が受注できるか不透明ということもあり、人手不足を感じているが、新たに人員を採用するマインドにならず、現行の人員で対応しようとする企業が増えてきている。（公的機関）
- 慢性的な人手不足の状況にあり、特に高卒・新卒の採用に苦戦している。工場稼働率も高く、既存の人員でなんとか回しているが、これ以上受注が増えしまうと、従業員の負担が大きくなってしまふことから、どうにかして採用を増やしていきたいと考えている。（金属製品）
- 現状は適正だが、新卒採用が計画に程遠い採用数となったため、将来的には不足となる可能性がある。（化学）
- 営業や整備部門の人手が不足している。営業職は辞職者が多く定着率が良くない。中途採用で人員の補充は出来ているものの、民間の求人サイトを利用しており多額の費用がかかっている。（自動車販売店）
- 正規、非正規問わず人員は不足している。常に募集をしているが応募がなく充足しない状態が続いている。また、最低賃金の上昇に伴い人件費が上昇している。（飲食店）

■ **設備投資** 「5年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年10-12月期調査）でみると、5年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年度を下回る見込みとなっているものの、非製造業は前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「5年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年10-12月期調査）でみると、5年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数（3ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、貸家で前年を上回っているものの、持家、分譲で前年を下回っている。

■ **公共事業** 「前年を上回る」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を上回っている。内訳でみると、市町村、独立行政法人等で前年を下回っているものの、国、県で前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ **景況判断** 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和5年10~12月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、中堅企業で「上昇」超、大企業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、中小企業で「下降」超となっている。

連絡・問合せ先 和歌山財務事務所 財務課 TEL：073-422-6142